

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成29年12月22日
【事業年度】	第56期(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
【会社名】	株式会社シイエム・シイ
【英訳名】	CMC CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐々幸恭
【本店の所在の場所】	名古屋市中区平和一丁目1番19号
【電話番号】	052(322)3351(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 杉原修巳
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中区平和一丁目1番19号
【電話番号】	052(322)3351(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 杉原修巳
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第52期 平成25年 9 月	第53期 平成26年 9 月	第54期 平成27年 9 月	第55期 平成28年 9 月	第56期 平成29年 9 月
売上高 (千円)	14,185,535	16,039,840	17,323,513	16,499,196	16,889,054
経常利益 (千円)	1,040,411	1,570,462	1,939,346	1,328,878	1,534,365
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	522,805	906,814	1,002,422	771,424	938,060
包括利益 (千円)	676,713	945,112	1,064,567	602,099	1,138,508
純資産額 (千円)	9,069,263	9,919,500	10,892,157	11,366,224	12,204,726
総資産額 (千円)	12,157,033	13,835,716	15,468,228	14,846,761	16,678,088
1株当たり純資産額 (円)	4,040.43	4,282.10	4,591.49	4,728.95	5,151.95
1株当たり 当期純利益金額 (円)	233.05	399.11	430.72	325.08	397.09
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	229.76	379.34	404.76	313.02	—
自己資本比率 (%)	74.6	71.7	70.4	76.2	72.9
自己資本利益率 (%)	5.9	9.6	9.6	6.9	8.0
株価収益率 (倍)	8.2	7.8	6.8	8.6	10.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	500,318	1,478,170	1,428,833	1,177,521	1,784,330
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△408,752	△162,119	△543,067	△973,728	△242,322
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△183,041	64,088	△193,872	△82,938	△350,010
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	3,589,704	5,015,439	5,713,386	5,788,559	7,191,875
従業員数 〔外、平均臨時雇用者 数〕 (名)	788 〔27〕	814 〔25〕	832 〔23〕	888 〔23〕	931 〔72〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第55期より、重要性が増したことによりCMC ASIA PACIFIC CO., LTD.及びMaruboshi (Thailand) Co., Ltd.を連結の範囲に含めております。

3 第56期より、重要性が増したことにより株式会社メインを連結の範囲に含めております。

4 第56期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月	平成25年9月	平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月
売上高 (千円)	10,080,887	10,727,734	11,661,250	10,573,810	10,245,400
経常利益 (千円)	1,033,329	1,388,236	1,719,827	1,166,133	1,416,372
当期純利益 (千円)	600,079	864,083	932,379	783,690	990,665
資本金 (千円)	529,770	590,885	637,635	657,610	657,610
発行済株式総数 (株)	2,243,600	2,315,500	2,370,500	2,394,000	2,394,000
純資産額 (千円)	9,062,554	9,893,870	10,742,962	11,352,267	12,055,806
総資産額 (千円)	11,235,520	12,548,450	14,104,659	13,413,845	14,815,509
1株当たり純資産額 (円)	4,039.79	4,273.47	4,532.65	4,742.71	5,111.73
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	70 (-)	80 (-)	85 (-)	85 (-)	85 (-)
1株当たり 当期純利益金額 (円)	267.50	380.31	400.63	330.25	419.36
潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益金額 (円)	263.72	361.47	376.48	317.99	—
自己資本比率 (%)	80.7	78.8	76.2	84.6	81.4
自己資本利益率 (%)	6.8	9.1	9.0	7.1	8.5
株価収益率 (倍)	7.2	8.2	7.3	8.5	9.7
配当性向 (%)	26.2	21.0	21.2	25.7	20.3
従業員数 〔外、平均臨時雇用者 数〕 (名)	434 [27]	414 [23]	431 [22]	439 [21]	450 [20]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第56期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

- 昭和37年 5月 株式会社名古屋レミントンランド・マイクロフィルムサービスを名古屋市東区に設立
図面文書などのマイクロフィルムサービス受託業務を開始
- 昭和41年 5月 株式会社中部マイクロセンターに商号を変更、本社を名古屋市中区に移転
写真製版を中心としたオフセット印刷部門を開設
- 昭和44年12月 東京都中央区勝どきに東京事業部を開設、図面マイクロを中心とした業務を開始
- 昭和45年12月 パンチサービス受託業務を主業務とするE D P (電子データ処理システム) 事業部を開設
- 昭和47年 4月 E D P 事業部を独立させ株式会社中部システムズを名古屋市中区に設立
コンピュータオペレーション、プログラム受託業務を開始
- 昭和52年 6月 トヨタ自動車販売株式会社(現 トヨタ自動車株式会社)のリペアマニュアル原稿作成業務の受託
を開始
- 昭和54年 8月 東京地区に翻訳を主業務とする株式会社イントランスを東京都中央区に設立
- 昭和55年10月 中部マイクロセンター印刷工場を名古屋市中川区に移転、新設
製版から印刷、製本に至る一貫体制を確立
- 昭和55年11月 中部マイクロセンター印刷工場を分社化し、株式会社中部印刷製本センターを名古屋市中川区に
設立
- 平成元年10月 C I を導入、中部マイクロセンターの商号を株式会社シイエム・シイに変更
- 平成 2年 6月 マニュアル企画制作部を愛知県日進町(現 愛知県日進市)に移転
- 平成 6年 2月 当社が株式会社イントランス、株式会社中部システムズ、株式会社中部印刷製本センターを吸収
合併し、新生株式会社シイエム・シイとして新たにスタート
- 平成 8年10月 東京本部を東京都中央区の新社屋に移転
- 平成10年 6月 アメリカの拠点としてロサンゼルスにCMC PRODUCTIONS USA INC. を設立
資本金30万ドルを出資
- 平成13年 1月 大阪営業所を大阪市西区に開設
- 平成14年10月 キャリア・プロデュース事業部を開設し、人材派遣業務を開始
- 平成17年12月 中国広州市に、広州国超森茂森信息科技有限公司(連結子会社)を設立
資本金102万人民元を出資
- 平成18年10月 ソフトウェア開発・人材派遣部門を分社化し、株式会社CMC Solutionsを名古屋市中区に設立(連
結子会社)
資本金80百万円を出資
- 平成20年12月 ジャスダック証券取引所に当社株式を公開
- 平成23年 1月 丸星株式会社の全株式を取得し、子会社化(連結子会社)
同株式取得にともない、Maruboshi Europe B.V. (連結子会社)、Maruboshi (Thailand) Co.,
Ltd. (連結子会社)他 4 社を子会社化
- 平成24年10月 東南アジアの拠点としてタイ バンコクにCMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (連結子会社)を設立
資本金720万バーツを出資
- 平成28年 1月 岐阜県多治見市に多治見事業所を設立
マニュアル制作拠点を日進事業所より移転
- 平成28年 7月 株式会社メインの全株式を取得し、子会社化(連結子会社)
- 平成29年10月 株式会社アサヒ・シーアンドアイの全株式を取得し、子会社化
- 平成29年11月 株式会社シミュラティオの株式を取得し、関連会社化

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社7社(国内3社、海外4社)、非連結子会社かつ持分法非適用子会社5社(海外5社)により構成されており、「マーケティング事業」及び「システム開発事業」を提供しております。

当社と関係会社の事業内容及び当該事業に係る位置付けにつきましては、次のとおりであります。なお、セグメントと同一の区分です。

[マーケティング事業]

当事業は、当社グループの主体業務であり、お客さま企業のマーケティング活動を支援するサービスを提供しており、以下の4つに分類しております。

(1) インターナル・マーケティング

お取引先の従業員などを「売る気にさせる」ことを目的とした、業務標準化や商品教育・販売教育・技術教育などの企画・運営を行っております。

[事例] 販売店スタッフ教育支援ツールの企画・制作、教育支援プログラムの企画・運営
Webサイトの企画・制作、研修会の企画・運営

[会社] 国内：株式会社シイエム・シイ、丸星株式会社、株式会社メイン
海外：広州国超森茂森信息科技有限公司(中国)、CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (タイ)

(2) エクスターナル・マーケティング

消費者の方を「買う気にさせる」ことを目的とした、お取引先の製品を訴求する販売促進や広告宣伝、広報などの企画・運営を行っております。

[事例] CS向上施策、商品訴求のためのコンテンツ作成、VRを活用したイベント・展示会等の企画・運営

[会社] 国内：株式会社シイエム・シイ、丸星株式会社、株式会社メイン
海外：広州国超森茂森信息科技有限公司(中国)、CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (タイ)

(3) カスタマーサポート・マーケティング

お取引先の製品やサービスを購入いただいた消費者の方に「満足していただく」ことを目的とした、製品の取扱説明書やサービススタッフ向けの修理書などの企画・編集・制作・翻訳を行っております。

当社の主力分野であり、自動車、工作機械、家庭用電化製品、OA機器、住宅設備機器など様々な分野・種類のテクニカルドキュメントに対応しております。中でも自動車の取扱説明書や修理書については、日本語、英語に限らず、海外の様々な言語にまで幅広く対応しております。

[事例] 取扱説明書やメンテナンススタッフ向けの修理書・施工説明書の企画・編集・制作・翻訳
マニュアルなどの各種ドキュメントの分析・標準化

[会社] 国内：株式会社シイエム・シイ、丸星株式会社、
海外：Maruboshi Europe B.V.(オランダ)、Maruboshi France S.A.R.L(フランス)、
Maruboshi Central & Eastern Europe Sp. zo.o(ポーランド)、
CMC PRODUCTIONS USA INC.(米国)、
広州国超森茂森信息科技有限公司(中国)、広州市丸星資訊科技有限公司(中国)
CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (タイ)、Maruboshi(Thailand) Co., Ltd. (タイ)
台湾丸星資訊科技股分有限公司(台湾)

(4) トータルプリンティング

取扱説明書や修理書などの印刷・製本を行っております。国内においては、印刷工場を保有し、印刷から製本まで一貫した制作システムを社内を持つことにより、制作時間の短縮と顧客情報の機密管理を可能にしております。

[事例] 取扱説明書や修理書などの印刷・製本、学校法人及び地方公共団体のパンフレットの印刷・製本
小売業の顧客企業向けチラシの印刷

[会社] 国内：株式会社シイエム・シイ

海外：CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (タイ)、Maruboshi(Thailand) Co., Ltd. (タイ)

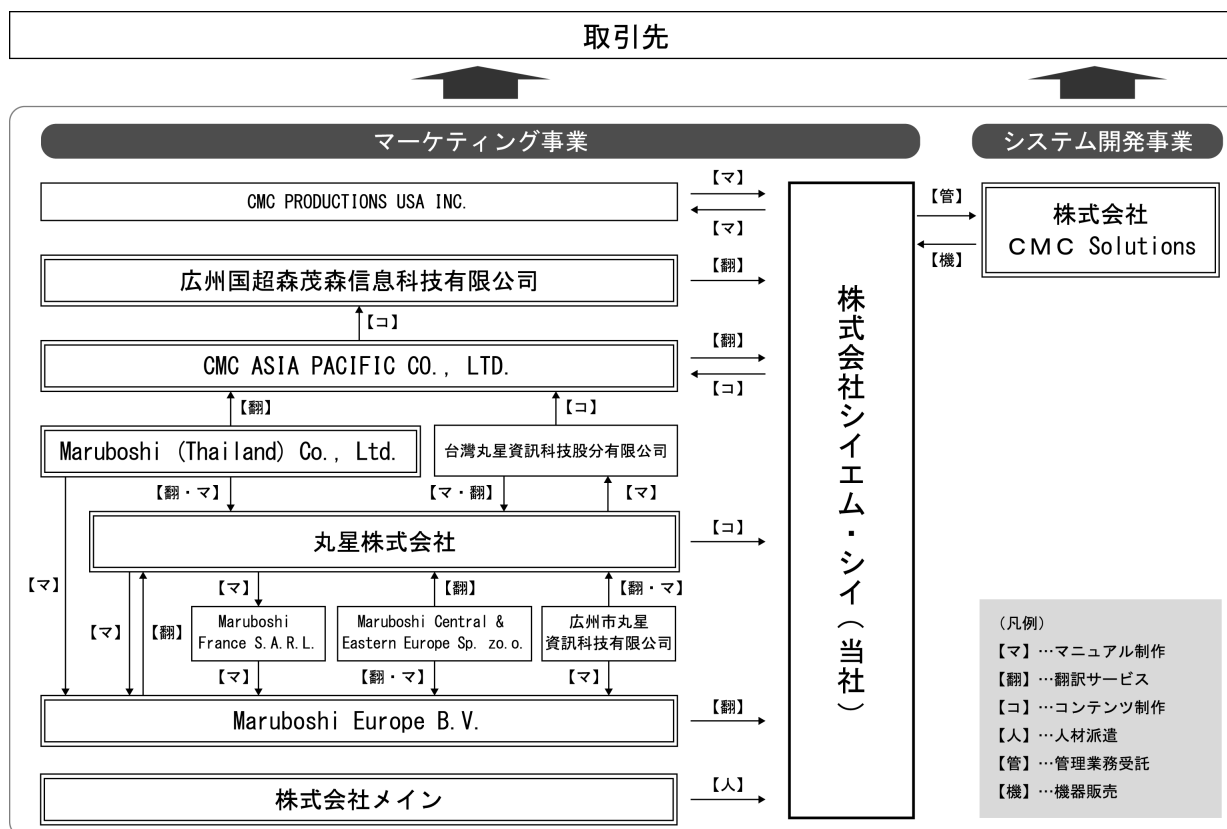
[システム開発事業]

当事業は、お客さま企業のICT戦略を支援するサービスを提供しております。

[事例] ICTソリューションの企画・提案、システムインテグレーション、ソフトウェア受託開発、ソフトウェア開発要員の派遣、ソフトウェアパッケージの販売、ハードウェア及び周辺機器販売、各種クラウドサービスの提供

[会社] 国内：株式会社CMC Solutions

事業系統図は、以下のとおりです。



※二重枠は連結対象子会社。

※株式会社シイエム・シイ(当社)、株式会社CMC Solutions、丸星株式会社、株式会社メインは国内。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金または 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社CMC Solutions (注) 3、6	名古屋市中区	80,000	システム 開発事業	100.0	当社に対し機器販売等 を行っております。 役員の兼任 あり
丸星株式会社 (注) 3、7	横浜市西区	440,500	マーケテ ィング事 業	100.0	当社に対し原稿作成等 を行っております。 役員の兼任 あり
Maruboshi Europe B.V.	オランダ アムステルダ ム	千ユーロ 142	マーケテ ィング事 業	100.0 [100.0]	当社に対し翻訳役務の 提供等を行っておりま す。
広州国超森茂森信息科技有限 公司	中国 広東省広州市	千元 3,000	マーケテ ィング事 業	93.5	当社に対し翻訳役務の 提供等を行っておりま す。 債務保証をしておりま す。 役員の兼任 あり
CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. (注) 4	タイ バンコク	千バーツ 15,000	マーケテ ィング事 業	49.0 [1.0]	当社に対し翻訳役務の 提供等を行っておりま す。 債務保証をしておりま す。 役員の兼任 あり
Maruboshi (Thailand) Co., Ltd. (注) 4	タイ バンコク	千バーツ 4,000	マーケテ ィング事 業	49.0 [49.0]	当社に対し翻訳役務の 提供等を行っておりま す。
株式会社メイン	東京都港区	30,000	マーケテ ィング事 業	100.0	当社に対し役務の提供 等を行っております。 役員の兼任 あり

- (注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報の名称を記載しております。
2 「議決権の所有(被所有)割合」欄の〔内書〕は間接所有の所有割合であります。
3 特定子会社に該当しております。
4 持分は、100分の50以下であります。が、実質的に支配しているため子会社としております。
5 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。
6 株式会社CMC Solutionsにつきましては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えておりますが、セグメント情報に記載しておりますので、主要な損益情報等の記載を省略しております。

- 7 丸星株式会社につきましては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	① 売上高	2,526,623千円
	② 経常利益	227,590 "
	③ 当期純利益	161,865 "
	④ 純資産額	1,515,500 "
	⑤ 総資産額	2,199,274 "

- 8 上記以外に5社関係会社がありますが、いずれも非連結子会社であるため記載を省略しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
マーケティング事業	817 [72]
システム開発事業	114
合計	931 [72]

- (注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。
- 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
- 3 臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
- 4 前連結会計年度末に比べ臨時従業員数が49名増加しておりますが、主として株式会社メインを連結子会社にしたことによるものであります。

(2) 提出会社の状況

平成29年9月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
450 [20]	39.0	12.8	5,778

- (注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
- 2 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員(1日8時間換算)であります。
- 3 臨時従業員には、パートタイマーを含み、派遣社員を除いております。
- 4 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 5 当社の報告セグメントは「マーケティング事業」のみであるため、セグメントごとの従業員数の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されていませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1)業績

当社グループの主力事業である「マーケティング事業」は、お客さま企業のマーケティング活動における戦略パートナーとして、お客さま企業の技術情報に関する知見を活かしたマニュアルなどの制作、業務標準化支援、及び、教育・研修といった一連のサービスにICT(※)などを活用して提供するものであります。当社グループは時代の変化やお客さま企業の事業環境の変化に合わせた柔軟な事業展開をすることが重要であるという考えのもと、経営をすすめてまいりました。

当連結会計年度において、当社グループの主力市場である自動車市場では、自動運転技術やコネクティッドカーなどのIoT(※)技術の活用、燃料電池自動車・電気自動車などの環境技術の推進、カーシェア・ライドシェアなどの新しい取り組みが活発化しました。また、技術の進展とともに、ユーザーフレンドリーな情報発信へのニーズも高まりました。その一方で、生産車種の選択と集中、生産部品の共通化などの効率化やコスト削減を意識した取り組みがすすめられました。

当社グループへの影響としては、技術教育・販売教育・商品教育などの新しい需要が高まる一方で、お客さま企業の販売計画をうけ、主力業務である技術マニュアル制作において、厳しい環境となりました。

当社グループとしては、ICTなどの活用による制作コストの削減に取り組むとともに、特定市場への依存度を軽減するべく、他市場への戦略的営業活動を続けてまいりました。特に、成長市場として「ロボット」、「医療・医薬品」、「物流」に注力して新規開拓をすすめてまいりました。また、市場横断的な取り組みとして、具体的には、人工知能(AI)、仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、音声エージェントなどの技術を活用した新商材の開発、海外拠点間の連携強化、さらに、グループ内の業務効率化を推進するために、管理業務の統合化などに取り組んでまいりました。

以上のような経営環境のもと、収益力強化とともに将来を見据えた投資活動をすすめた結果、当社グループの連結会計年度における売上高は、16,889百万円(前年同期比389百万円増、同2.4%増)、営業利益は1,372百万円(前年同期比1百万円増、同0.1%増)、経常利益は1,534百万円(前年同期比205百万円増、同15.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は938百万円(前年同期比166百万円増、同21.6%増)となりました。

※ICT：情報通信技術(Information and Communication Technology)

※IoT：モノのインターネット(Internet of Things)

これをセグメント別に見ますと、次のとおりであります。

[マーケティング事業]：お客さま企業のマーケティング活動を支援するための一連のサービスを提供

自動車関連分野において技術マニュアル制作案件の減少があったものの、住宅関連分野において販売教育案件が増加いたしました。また、当社のマーケティングノウハウを医療・医薬品市場に対して展開する「医療・医薬品マーケティング」において、積極的な営業活動をすすめたことで新規案件が増加いたしました。さらに、新たに連結対象となった人材育成・教育研修事業を展開する株式会社メイン分の増加があり、マーケティング事業の売上高は14,965百万円(前年同期比245百万円増、同1.7%増)となりました。一方で、株式会社メインの取得にともない発生したのれんを償却したため、営業利益は1,466百万円(前年同期比13百万円減、同0.9%減)となりました。事業分類ごとの状況は次のとおりです。

事業分類	概要	売上高	前年同期比	
インターナル・マーケティング	業務標準化や商品教育・販売教育・技術教育などの企画・運営	3,738百万円	643百万円増	20.8%増
エクスターナル・マーケティング	販売促進や広告宣伝、広報などの企画・運営	1,322百万円	210百万円減	13.7%減
カスタマーサポート・マーケティング	製品の取扱説明書や修理書などの企画・編集・制作	7,927百万円	209百万円減	2.6%減
トータルプリンティング	取扱説明書や修理書などの印刷・製本、商業印刷	1,519百万円	32百万円増	2.2%増
その他	人材派遣、市場調査、物品の販売 など	456百万円	10百万円減	2.3%減

[システム開発事業]：お客さま企業のICT戦略を支援する一連のサービスを提供

物流関連分野において、ソフトウェアの受託開発が増加しました。特に、IoTを活用した業務プロセスの見える化、ICTを活用した農業支援などの新たな案件が増加しました。さらに、工場の業務分析、組織分析を通して問題点を抽出し、改善・定着支援を行う「管理技術コンサルティング」案件が増加し、売上高は1,923百万円（前年同期比144百万円増、同8.1%増）、営業利益は84百万円（前年同期比14百万円増、同20.8%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,403百万円増加し、当連結会計年度末には7,191百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,784百万円の収入（前年同期は1,177百万円の収入）となりました。これは主として、売上債権の増加662百万円があったものの、税金等調整前当期純利益1,532百万円の収入、減価償却費311百万円、仕入債務の増加259百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、242百万円の支出（前年同期は973百万円の支出）となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出115百万円、無形固定資産の取得による支出87百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、350百万円の支出（前年同期は82百万円の支出）となりました。これは主として、配当金の支払額203百万円、自己株式の取得による支出95百万円によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
マーケティング事業	9,834,708	98.8
システム開発事業	1,172,955	102.2
合計	11,007,663	99.2

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 金額は製造原価によっております。
 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当社グループの取引は、企画・編集・制作の各段階で、仕様変更・内容変更が発生するケースが多く、その結果、受注金額の最終決定から売上計上(販売)までの期間が短いため、受注実績の記載を省略しております。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)	
マーケティング事業	14,965,116	101.7	
(事業分類別)	インターナル・マーケティング	3,738,708	120.8
	エクスターナル・マーケティング	1,322,683	86.3
	カスタマーサポート・マーケティング	7,927,975	97.4
	トータルプリンティング	1,519,343	102.2
	その他	456,405	97.7
システム開発事業	1,923,938	108.1	
合計	16,889,054	102.4	

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
トヨタ自動車株式会社	6,272,373	38.0	6,172,283	36.5

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末(平成29年9月30日)現在において、当社グループが判断したものであります。将来に関する事項は不確実性を内包しておりますので、将来生じる実際の結果と差異を生じる可能性があります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「心動かすマーケティング。」を経営ビジョンに掲げております。お客さま企業のマーケティング活動における戦略パートナーとして、お客さま企業のマーケティング活動の支援、ICT(※)戦略支援などの一連のサービスを展開してまいります。

(2) 会社の対処すべき課題

当社グループが中長期的に更なる企業価値向上を図っていくため、以下の経営課題に対して着実に取り組み、末長くお客さま企業に期待される企業グループをめざしてまいります。

① マーケティング事業における新市場開拓

当社グループの主力事業である「マーケティング事業」は、お客さま企業のマーケティング活動における戦略パートナーとして、お客さま企業の技術情報に関する知見を活かしたマニュアルなどの制作、業務標準化支援、及び、教育・研修といった一連のサービスにICTなどを活用して提供するものであります。これまで、自動車市場をはじめとして、「製造業」「流通」「鉄道」「不動産」「教育機関」などのさまざまな市場において多種多様なソリューションを展開してまいりました。今後も、「ロボット」「医療・医薬品」「物流」など成長が見込まれる市場に対して、M&A、業務提携を積極的に活用し、新市場の開拓をすすめてまいります。

② ICTを活用した新市場開拓、及び、新規商材の研究・開発

当社グループは、お客さま企業のICT戦略を支援するサービスとして、ICTソリューションの企画・提案、システムインテグレーション、ソフトウェア受託開発などを展開しております。今後は、IoT(※)を活用したビッグデータの収集と分析に基づくマーケティング支援やICTを活用した事業支援などの新たな案件に取り組んでいくことで新市場の開拓をすすめてまいります。また、ICTを活用した新商材の研究・開発に注力してまいります。特に、人工知能(AI)、仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、音声エージェント、IoT、UI(ユーザーインターフェイス)などユーザーのわかりやすさの一步先を実現する研究に取り組んでまいります。

③ お客さま企業の海外展開にあわせた取り組みと海外市場に対する積極的な資源配分

当社グループはお客さま企業の海外向け施策におけるマーケティング支援に数多く取り組んでまいりました。今後増加が予測される海外向け施策の現地化にあわせて日本国内から当社グループの海外拠点に業務をシフトさせることで、現地の環境に適したソリューションを展開してまいります。当社グループは、海外13拠点(欧州3拠点、北米1拠点、アジア9拠点)のネットワークを保有しております。今後も事業の継続的な成長のために、海外拠点間の連携強化によるシナジーの追求、海外市場に対応できる人財の育成など積極的な資源配分をおこなってまいります。

④ 事業の継続的な成長に必要な人財の確保と育成、及び、ダイバーシティ経営の推進

当社グループは、今後の事業の継続的な成長のために、ICTや海外市場などの専門領域に強みを持つ人財の確保、次世代に向けた企画業務を担える人財の育成、に努めてまいります。また、多様な人財を活かし、能力を最大限発揮できる機会を提供する「ダイバーシティ経営」を推進してまいります。

具体的には、a. 活躍への障壁を取り除き、知識集約型へのシフトを促すための「働き方改革」、b. 社員に向けた公平なチャンスと評価を実現するための「公平施策」、c. 社員の主体性を促す「意識改革」をすすめてまいります。

⑤ I R・P R・C S Rの連動による当社グループの価値向上

当社グループは、企業価値を向上させることで、各ステークホルダーに当社グループのファンになっていただくことをめざしております。そのために、投資家・株主の皆さまに向けたI R、各市場・お客さま企業に向けたP R、地域・社会に向けたC S Rを連動させ、各ステークホルダーに向けて有益な情報提供や活動をすすめてまいります。I Rにおいては、株主の皆さまに対する利益還元を最重要な経営テーマのひとつと認識し、今後も将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続してまいります。また、フェア・ディスクロージャー・ルールに基づいたうえで、よりわかりやすい情報発信に努めてまいります。P Rにおいては、ホームページにおける情報の発信のほか、展示会などのイベントにおいて当社のサービスに関する情報を発信してまいります。C S Rにおいては、広く社会にとって有用な存在となるべく、当社グループの業務領域と地域・社会の関係性を意識したうえで、社会貢献を実現できる取り組みをすすめてまいります。

⑥ グループ経営体制及びコーポレートガバナンスの強化

平成29年11月に株式会社シミュラティオが関連会社としてグループ入りしたことで、当社グループは、当社、連結子会社7社(国内3社、海外4社)、その他の関係会社7社(国内2社、海外5社)により構成されることとなりました。グループの持続的な成長と中長期的なグループ価値の向上のため、グループ会社間のシナジーの追求、迅速な意思決定ができる体制づくり、事業運営の効率化・高度化、経営の公正性・透明性の確保及び内部管理体制の強化をすすめてまいります。また、コーポレートガバナンス・コードの基本原則に沿った各種施策に積極的に取り組み、「シイエム・シイグループ企業行動憲章」に基づき、グループ全体の企業倫理の一層の向上及びグループ企業としての企業価値最大化に向けて経営基盤の強化を図ってまいります。

※I C T：情報通信技術(Information and Communication Technology)

※I o T：モノのインターネット(Internet of Things)

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のようなものがあります。当社グループは、これらのリスクの可能性を認識した上で、発生の回避及び発生時の対応に努めております。

(1) 景気変動によるリスク

当社グループを含めたマーケティング会社・システム開発会社の業績は、景気の影響を受けやすい傾向にあります。顧客企業が、景気悪化にともない事業縮小・販売店舗の撤廃・統廃合などのリストラクチャリングを行うことや、製品開発の遅れなどで、当社グループが提供するサービス領域が縮小される可能性があるためです。

当社グループは、サービス内容の多様化や、国際市場への進出を図るなど、景気の影響を受けにくい事業構造の形成に努力しております。しかし、当社グループの国内売上高は、全売上高の86.8% (平成29年9月期) を占めているため、国内景気の変動に伴う国内主要顧客企業の動向により、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(2) 取引に伴うリスク

当社グループは、マーケティング事業を遂行するにあたり、コンサルティング会社や調査会社、広告会社、制作プロダクション、セールスプロモーション会社、PR会社、印刷会社などに業務委託を行っております。マーケティング業界においては、様々な事情により、計画や内容に、突然の変更が生じることが少なくありません。その結果、顧客企業や業務委託先会社との間で、不測の事態や紛争が生じる可能性があります。

当社グループでは、顧客企業と基本契約を締結するなど、取引上のトラブルを未然に回避する努力を行っておりますが、顧客企業の倒産などが生じた際に、実施したマーケティングサービスや広告メディア掲載料金の支払を受けられないにもかかわらず、業務委託先会社に対して支払債務を負担することとなり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3) 製品の品質にかかるリスク

当社グループは、自動車を中心とした技術情報マニュアルや商品教育・販売促進に関わる各種マニュアルの企画・編集・制作及び印刷を行っております。当社グループにおいて、企画・編集・制作時のミスや印刷時のミスプリント、乱丁等が発生し損害金額が大きかった場合、当社グループの信用が失墜し、業績に影響を与える可能性があります。

(4) 特定の取引先への高い依存

当社グループの売上高のうち、主要顧客であるトヨタ自動車株式会社に対する売上高の割合は、平成28年9月期において38.0%、平成29年9月期において36.5%となっており同社への売上・利益依存度は高い水準となっております。

このため、何らかの事情により同社との取引が打ち切られた場合は、当社グループの業績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5)競合によるリスク

①同業他社との競合

わが国におけるマーケティング業界は、コンサルティング会社、調査会社、広告会社、セールスプロモーション会社、PR会社間において、激しい競争が行われております。今後、マーケティング業界内企業の事業統合や、外資系企業による日本市場への参入により、将来顧客企業の獲得をめぐる競合が激しくなる可能性があります。将来、そのような状況が生じた場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

②隣接業種及び新規参入企業との競合

当社グループの事業領域が拡大するにつれて、シンクタンクなど隣接業種との競合が生じる機会も増加してきます。また、インターネットを利用したコミュニケーションシステム構築・運用などの事業領域においては新規参入企業も多く、これら企業と当社グループは競合する関係にあります。今後、これらの事業領域におけるノウハウの構築、業務効率化等の対応が遅れた場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6)法規制に関するリスク

①情報漏洩によるリスク

当社グループでは、マーケティング事業を遂行するにあたり、顧客企業の機密情報や個人情報を取得、利用する場合があります。当社は、ISO27001を取得し、グループを含め諸規程の制定、役員・従業員・パート社員への研修の実施、管理体制の体系化、システム構築・運用の強化を実施しておりますが、今後、外部からの不正アクセスなどにより機密情報・個人情報の流出に代表される重大なトラブルが生じた場合、当社グループへの損害賠償請求や信用の低下により、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

②システム開発事業にかかる法的規制

当社グループにおけるシステム開発事業に関わる法的規制は、著作権法、不正アクセス防止法、個人情報保護法等があります。これらについては、ライセンス・ソフトウェア管理規程等の整備、ISO27001認証取得による社内管理体制の確立等により法令遵守に努めております。しかしながら、法改正や法令違反等が発生した場合、当社グループの事業運営に支障をきたし、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

③その他

今後、マーケティング活動や広告・制作物の表現内容などに新たに影響を及ぼす法令、各種規制が採用もしくは強化された場合には、当社グループの事業に悪影響を及ぼす可能性があります。

(7)コンピュータウィルスによるリスク

当社グループでは、コンピュータウィルスの侵入を防ぐためにハード・ソフトによるチェック機能のほかISO27001で制定した諸規程をはじめとする各種ルールにて役員・従業員・パート社員に対しウィルスチェックを義務付けております。しかしながら、これらのチェックを潜り抜け外部から持ち込まれたコンピュータウィルスにより、機密情報・個人情報の流出による重大なトラブルや、基幹システムの停止による業務遅延が生じ、当社グループへの損害賠償請求や信用の低下などの悪影響を受ける可能性があります。

(8)訴訟等について

平成29年9月30日現在、当社グループは業績に重大な影響を与える訴訟には関与しておりません。しかしながら、当社グループは、第三者の知的財産権を侵した場合等に、取引先、各種団体、消費者または知的財産権の所有者らにより提起される訴訟に、直接または間接的に関与する可能性があります。

(9) 優秀な人財の確保

当社グループが継続的な成長を続けるためには、優秀な人財を確保し教育・育成していくことが重要課題の一つであると認識しております。そのため、当社グループは、採用活動の全社的強化及び能力開発体制の構築等、優秀な人財の獲得、育成に努めております。しかしながら、当社グループが求める人財を計画どおり確保し育成できなかった場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 自然災害、人災等について

当社グループは、国内では愛知県、岐阜県、東京都、大阪府、神奈川県に本社及び拠点があり、海外では米国、中国、オランダ、フランス、ポーランド、タイ、台湾、シンガポールに拠点があります。今後、局地的な水害や地震等の自然災害や火災、暴動、テロ等の人災が発生した場合は、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(11) システム開発事業におけるシステム障害について

当社グループにおけるシステム開発事業は、納品前に顧客とテストを繰り返し行い、顧客の最終受入テストの合格をもって納品となるため、システム障害が発生するケースは極めて低いものと認識しております。しかしながら、自然災害、コンピュータウィルス等の事故あるいは人為的なミスによりシステムが損害を受け機能しなくなる危険性を完全に排除することはできないため、その場合には当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1)重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたりまして、連結決算日における資産及び負債の状況に基づき将来の費用として発生が見込まれるものについては、一般に合理的と認められる方法により慎重に見積り判断を行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2)当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の経営成績の分析につきましては「第2 事業の状況、1 業績等の概要(1)」に記載しております。

(3)当連結会計年度末の財政状態の分析

①資産の部

当連結会計年度末の資産合計は、前年同期より1,831百万円増加し、16,678百万円(前年同期比12.3%増)となりました。これは主として、現金及び預金の増加1,473百万円、受取手形及び売掛金の増加756百万円によるものであります。

②負債の部

当連結会計年度末の負債合計は、前年同期より992百万円増加し、4,473百万円(前年同期比28.5%増)となりました。これは主として、未払法人税等の増加362百万円、支払手形及び買掛金の増加309百万円によるものであります。

③純資産の部

当連結会計年度末の純資産合計は、前年同期より838百万円増加し、12,204百万円(前年同期比7.4%増)となりました。これは主として、利益剰余金の増加734百万円によるものであります。

(4)キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては「第2 事業の状況、1 業績等の概要(2)」に記載しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施いたしました設備投資の総額は199百万円であります。

内訳は、マーケティング事業が166百万円、そのうち有形固定資産が110百万円、無形固定資産が55百万円であります。主なものは、当社における社屋用土地購入手付金33百万円であります。システム開発事業において、重要な設備投資はありません。

なお、重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成29年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
本社 (名古屋市中区)	マーケティング 事業	営業用 生産用	160,990	4,675	754,400 (584.15)	41,432	961,497	193
中川事業所 (名古屋市中川区)	マーケティング 事業	営業用 生産用	76,425	308,714	362,025 (2,430.43)	5,960	753,125	43
多治見事業所 (岐阜県多治見市)	マーケティング 事業	営業用 生産用	398,104	—	— (—)	14,784	412,889	138
東京事業所 (東京都中央区)	マーケティング 事業	営業用 生産用	30,627	1,991	468,999 (160.78)	3,201	504,820	46

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 上記の他、連結会社以外からの貸借設備がありますが、重要性に乏しいため記載を省略しております。

(2) 国内子会社

平成29年9月30日現在

会社名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	合計	
丸星株式会社 (横浜市西区)	マーケティング 事業	営業用 生産用	13,546	6,367	— (—)	12,828	32,742	223

(注) 1 上記金額には消費税等は含まれておりません。

2 上記の他、連結会社以外からの貸借設備がありますが、重要性に乏しいため記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方 法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	本社(名古屋市 中区)	マーケティ ング事業	土地・建 物	468,000	33,300	自己資金	平成30年 1月	平成30年 4月	—
	本社(名古屋市 中区)	マーケティ ング事業	基幹シス テム等	350,000	—	自己資金	平成29年 10月	平成31年 10月	—

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	7,970,000
計	7,970,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年12月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,394,000	2,394,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	2,394,000	2,394,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年10月1日～ 平成26年9月30日 (注)	71,900	2,315,500	61,115	590,885	61,115	504,545
平成26年10月1日～ 平成27年9月30日 (注)	55,000	2,370,500	46,750	637,635	46,750	551,295
平成27年10月1日～ 平成28年9月30日 (注)	23,500	2,394,000	19,975	657,610	19,975	571,270

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成29年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数 100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	9	13	15	14	1	651	703	—
所有株式数 (単元)	—	3,166	54	1,984	476	1	18,251	23,932	800
所有株式数 の割合(%)	—	13.23	0.23	8.29	1.99	0.00	76.26	100.00	—

(注) 自己株式35,543株は、「個人その他」に355単元、「単元未満株式の状況」に43株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
佐々 香予子	名古屋市西区	690,710	28.85
シイエム・シイ従業員持株会	名古屋市中区平和1-1-19	213,480	8.92
トヨタ自動車株式会社	愛知県豊田市トヨタ町1	100,000	4.18
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	77,900	3.25
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	77,400	3.23
林 史子	名古屋市昭和区	69,000	2.88
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	60,000	2.51
佐々 幸恭	名古屋市西区	53,540	2.24
龍山 真澄	千葉県大網白里市	47,300	1.98
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1-1-2	40,000	1.67
株式会社新居浜鉄工所	愛媛県新居浜市新田町1-6-46	40,000	1.67
計	—	1,469,330	61.38

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 35,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,357,700	23,577	—
単元未満株式	普通株式 800	—	—
発行済株式総数	2,394,000	—	—
総株主の議決権	—	23,577	—

② 【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 または名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社シイエム・シイ	名古屋市中区平和 一丁目1番19号	35,500	—	35,500	1.48
計	—	35,500	—	35,500	1.48

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成28年11月9日)での決議状況 (取得期間平成28年11月10日～平成28年11月10日)	50,000	150,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	35,100	95,472
残存決議株式の総数及び価額の総額	14,900	54,528
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	29.8	36.4
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	29.8	36.4

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	69	286
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成29年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(—)	—	—	—	—
保有自己株式数	35,543	—	35,543	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成29年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと認識しており、将来の事業展開と経営基盤の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを基本的な考え方としております。

当社は、「取締役会の決議により、毎年3月31日を基準日として中間配当をすることができる」旨を定款に定めておりますが、現状、期末配当として年1回の配当を実施しております。なお、配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会としております。

以上の考え方に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株当たり85円といたしました。

内部留保金につきましては、企業体質の強化に向けて財務体質の充実を図りながら、アジアなどの海外市場における営業基盤の整備、並びに経営基盤の整備・拡充等に有効に活用し、当社の競争力及び収益力の向上を図っていきたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成29年12月22日 定時株主総会決議	200,468	85

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第52期	第53期	第54期	第55期	第56期
決算年月	平成25年9月	平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月
最高(円)	2,340	3,595	4,600	3,450	4,500
最低(円)	1,448	1,807	2,612	2,250	2,533

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	4,500	4,090	4,185	4,300	4,300	4,350
最低(円)	3,600	3,720	3,900	4,045	4,080	3,955

5 【役員 の 状 況】

男性 9 名 女性 0 名 (役員 の うち 女性 の 比 率 0 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	—	佐々 幸恭	昭和39年 8 月28日	平成 4 年10月 平成 9 年12月 平成10年 6 月 平成16年 2 月 平成16年11月 平成17年 4 月 平成18年12月 平成23年12月	当社入社 当社取締役第 2 営業本部長 CMC PRODUCTIONS USA INC. 取締役社長 CMC PRODUCTIONS USA INC. 取締役社長退任 当社取締役マーケティング情報企画部長 当社取締役マーケティング本部長 当社取締役専務執行役員マーケティング本部長 当社代表取締役社長代表執行役員(現任)	注 3	53,540
取締役	社長補佐、 グループ海外拠点統括	大坪 勉	昭和33年 1 月23日	昭和56年 4 月 平成23年 7 月 平成25年11月 平成25年12月 平成27年12月 平成29年10月	トヨタ自動車販売株式会社(現トヨタ自動車株式会社)入社 TOYOTA MOTOR POLAND COMPANY LIMITED 会長 兼 CEO トヨタ自動車株式会社TME-Japan主査 トヨタ自動車株式会社退社 当社取締役専務執行役員第 1 営業本部長、技術情報企画本部長 広州国超森茂森信息科技有限公司董事長(現任) 当社取締役執行役員副社長第 1 営業本部長、技術情報企画本部長 CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. 代表取締役(現任) 当社取締役執行役員副社長、社長補佐、グループ海外拠点統括(現任)	注 3	3,100
取締役	営業本部長	小林 淑記	昭和35年12月23日	昭和59年 3 月 平成 9 年 4 月 平成14年12月 平成18年12月 平成24年10月 平成29年10月	株式会社イントランス(平成 6 年 2 月当社と合併)入社 当社東京本部営業部長 当社取締役東京本部長 当社取締役常務執行役員東京本部長 当社取締役常務執行役員第 2 営業本部長 当社取締役常務執行役員営業本部長(現任)	注 3	21,080
取締役	メディア事業本部長兼 ICT部部长、技術情報企画本部長	近藤 幸康	昭和37年10月 1 日	平成15年 8 月 平成15年10月 平成18年12月 平成22年12月 平成25年12月 平成27年12月 平成29年10月	当社入社 当社 IT ソリューション部部长 当社執行役員 IT ソリューション部部长 当社常務執行役員営業本部第 2 営業部、関西西部、グローバルコンテンツ戦略部担当 当社常務執行役員メディア事業本部長兼 ICT 部部长 当社取締役常務執行役員メディア事業本部長兼 ICT 部部长 当社取締役常務執行役員メディア事業本部長兼 ICT 部部长、技術情報企画本部長(現任)	注 3	5,200
取締役	管理本部長 兼経理部長 兼グループサポート部部长、経営企画室担当	杉原 修巳	昭和38年 3 月 5 日	昭和60年 4 月 平成19年 4 月 平成23年 1 月 平成25年 7 月 平成27年 8 月 平成27年12月 平成28年 7 月 平成29年12月	東海銀行(現株式会社三菱東京UFJ銀行)入行 三菱UFJ証券株式会社(現三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社)投資銀行本部自動車セクター・チーム部長 株式会社三菱東京UFJ銀行知多半田地区支配人兼半田支社長 MUセンターサービス名古屋株式会社代表取締役社長 当社出向 経理部長兼経営企画室長 当社執行役員管理本部長兼経理部長、経営企画室担当 株式会社三菱東京UFJ銀行退行 当社取締役執行役員管理本部長兼経理部長兼グループサポート部部长、経営企画室担当(現任)	注 3	100
取締役 (非常勤)	—	大武 健一郎	昭和21年 7 月10日	昭和45年 5 月 平成 7 年 5 月 平成10年 7 月 平成13年 7 月 平成16年 7 月 平成17年 7 月 平成20年 3 月 平成20年 5 月 平成26年12月 平成27年 5 月 平成28年 5 月	大蔵省(現財務省)入省 同省大臣官房審議官 同省国税庁次長 財務省主税局長 同省国税庁長官 退官 商工組合中央金庫(現株式会社商工組合中央金庫)副理事長 商工組合中央金庫退任 (認定NPO法人)ベトナム簿記普及推進協議会理事長(現任) 当社取締役(現任) 株式会社キリン堂ホールディングス社外取締役(現任) タビオ株式会社社外取締役(現任)	注 3	1,400

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役 (常勤)	—	中目 哲夫	昭和31年8月29日	昭和55年4月 平成26年1月 平成26年12月	トヨタ自動車販売株式会社(現トヨタ自動車株式会社)入社 トヨタ自動車株式会社中近東部グループ長 トヨタ自動車株式会社退社 当社監査役就任(現任)	注4	—
監査役 (非常勤)	—	後藤 武夫	昭和20年4月10日	昭和47年4月 昭和54年4月 平成18年6月 平成18年12月 平成26年6月	弁護士登録 後藤武夫法律事務所(現後藤・鈴木法律事務所) 開設 所長就任(現任) 石塚硝子株式会社監査役就任 当社監査役就任(現任) 石塚硝子株式会社社外取締役就任(現任)	注4	1,500
監査役 (非常勤)	—	黒神 聰	昭和17年7月13日	昭和49年11月 昭和56年4月 平成25年4月 平成25年12月	愛知学院大学法学部助教授 愛知学院大学法学部教授 愛知学院大学法学部客員教授 当社監査役就任(現任)	注4	—
計							85,920

- (注) 1 取締役 大武健一郎は、社外取締役であります。
2 監査役 後藤武夫、黒神聰は、社外監査役であります。
3 取締役の任期は、平成29年12月22日開催の定時株主総会終結の時から、平成31年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4 監査役の任期は、平成27年12月22日開催の定時株主総会終結の時から、平成31年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
5 当社は、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制を構築するため、執行役員制度を導入しております。

執行役員は13名であります。

取締役兼務執行役員

代表執行役員 佐々 幸恭
執行役員副社長 大坪 勉
常務執行役員 小林 淑記
常務執行役員 近藤 幸康
執行役員 杉原 修巳

取締役以外の執行役員

常務執行役員 村杉 満
執行役員 大塚 文男
執行役員 城野 哲郎
執行役員 伊藤 正司
執行役員 岩本 信生
執行役員 天方 雅明
執行役員 山尾 百合子
執行役員 東條 正敬 (平成30年1月1日付就任予定)

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社はコーポレート・ガバナンスの基本方針として、株主・取引先・地域社会・従業員等の各ステークホルダーと良好な関係を築きながら、企業価値の継続的な向上を図り、長期安定的な成長を遂げていくことが重要であると考えております。

そのために、取締役会を中心として、経営の健全性と透明性を図りながら、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制を構築し、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

② 企業統治の体制

a 企業統治の体制の概要等について

当社は、会社法上の取締役会、監査役会及び会計監査人設置会社であります。

取締役会は取締役6名(うち社外取締役1名)で構成され、月1回開催されるほか、必要に応じて随時開催しており、経営の健全性と適切な事業運営を図っております。取締役会は、取締役の職務執行を監督するのみでなく、当社経営における最高の意思決定機関でもあります。なお、当社の取締役は12名以内とする旨を定款で定めております。

当社は経営効率の向上を目的として、執行役員制度を導入しております。取締役6名のうち5名は執行役員を兼任しており、あわせて本部制を採用していることから、取締役3名及び取締役以外の執行役員1名が本部長として、5つある各本部を統括管理しております。なお、執行役員の員数は12名であり、平成30年1月1日付で新たに執行役員1名が就任し13名になる予定であります。業務執行については、担当役員(執行役員)が「職務権限規程」に基づいて組織運営を行い、的確な意思決定のできる体制づくりに努めております。

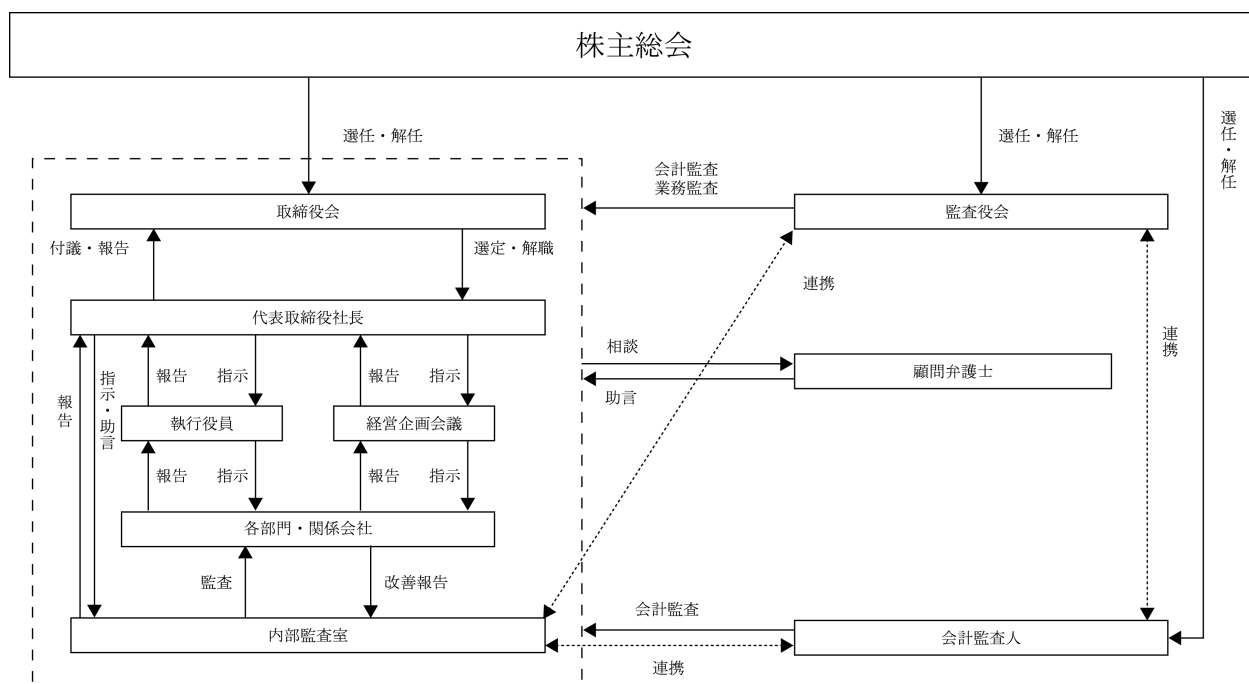
監査役会は監査役3名(うち社外監査役2名)で構成されております。監査役は取締役会に出席し、経営の透明性・意思決定及び業務執行の適法性をチェックするとともに、必要に応じて意見を述べております。

業務運営に関しては、取締役、執行役員及び連結対象子会社代表取締役社長で構成される経営企画会議を、監査役の出席を得て毎月1回開催しており、各部門及び子会社の売上高及び営業利益予算実績対比、主要得意先販売状況、トピックス等経営に影響を与える事項についていち早く共有し対処できる体制を構築しております。

b 企業統治の体制を採用する理由

当社の経営にあたっては、当社事業に精通した取締役及び独立性の高い社外取締役で構成する取締役会により各取締役の業務執行の監督を行ってまいりました。また、取締役及び取締役会に対する監査機能として、独立性の高い社外監査役2名を選任し、監査機能の客観性の確保を保ってまいりました。これらにより、当社の企業統治は、取締役会及び監査役会設置会社という体制のもとに、客観的かつ効率的・効果的に実施されており、現行の体制が最適であると考えております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は、以下の図のとおりであります。



c 内部統制システム整備の状況

当社は、会社法に定める「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制」に関しては、以下のとおり取締役会にて決議し、体制の整備に努めております。

イ 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役は、「シエム・シイグループ企業行動憲章」、「取締役会規則」等の行動規範に基づき職務を執行し、取締役会を通じて代表取締役の業務執行の監視、監督を行う。また、法令遵守体制にかかる規程を整備し、コンプライアンス体制の整備を行う。また、弁護士等の外部専門家から、必要に応じてアドバイスを受ける体制を整え、業務運営の適法性の確保に努める。

監査役は、取締役会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類の閲覧等により、取締役会の意思決定と代表取締役の業務執行の状況について監査を行う。

ロ 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る文書その他の情報については、「文書管理規程」に基づき、適切に保存及び管理を行う。

ハ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

代表取締役社長をリスクに関する統括責任者とする。

部門ごとに対応すべきリスクについては、各部門が予防・対策に努めることとするほか、情報セキュリティ及び個人情報保護に関しては、「I S P 関連規程」に基づいて対応する。

内部監査部門である内部監査室は、各部門の日常的なリスク管理状況の監査を実施するとともに、統括責任者に報告する。

ニ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、経営の執行方針、法令で定められた事項やその他経営に関する重要事項を決定し、業務執行状況を監督する。

中期経営計画を策定し、目標達成のための活動を行い、その進捗状況を管理する。

取締役の職務の役割分担、責任権限を明確にするとともに、執行役員へ権限を委譲し、職務執行を効率的かつ迅速に行う。

重要な経営課題について、取締役・執行役員他で構成される経営企画会議で十分な検討を行い、経営上の意思決定を迅速に行う。

ホ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「シイエム・シイグループ企業行動憲章」、社内規程の周知徹底と職務に関連した法令の遵守を徹底するために、定期的に教育を行う。

「内部通報制度」を整備し、通報者保護の徹底、社外窓口の設置など、不正な行為を通報できる体制を整える。

内部監査部門である内部監査室は、使用人の職務執行の状況について、定期的に内部監査を行う。

ヘ 当社及び当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

「関係会社管理規程」に基づき、子会社の重要事項の決定には、子会社と十分に協議した上で当社取締役会の承認を行うことにより子会社の経営管理を行う。

シイエム・シイグループにおける企業倫理の徹底、コンプライアンス経営を推進するため、「内部通報制度」を活用する。

監査役と内部監査部門である内部監査室が緊密に連携して、当社や子会社などの業務監査を実施する。

毎月開催される経営企画会議に連結子会社代表取締役は出席し、業績報告他業務報告を行う。また、連結子会社以外の関係会社についても、経営企画会議の場において、業績報告他業務報告を行う。

ト 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役は、内部監査部門である内部監査室等に所属する使用人から監査役職務を補助すべき使用人を指名できるものとする。当該使用人は、監査役の指示に従い誠実にその指示を履行する。

チ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

前号の使用人の独立性を確保するため、配置する使用人の人事異動及び考課等については、事前に監査役会の同意を得る。

リ 取締役及び使用人等が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役は、取締役会、経営企画会議その他重要な会議に出席するほか、業務執行に関する重要な書類を適時閲覧し、必要に応じて、取締役及び使用人等に対して、職務執行についての報告を求めることができる。また、取締役は、会社に著しい損害を及ぼす恐れがある事実及び法令・定款に違反する重大な事実等が発生した場合は、速やかに監査役に報告する。

監査役は、会計監査人より、取締役及び使用人等の業務の適法性・妥当性について報告を受ける。また、内部監査部門である内部監査室より、監査結果について報告を受ける。

監査役は、取締役が整備する「内部通報制度」による通報状況について報告を受ける。

監査役に報告をした取締役や使用人等に対して、当該報告をしたことを理由として不利益な取扱いを行うことを禁じる。

ヌ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役、会計監査人及び内部監査部門である内部監査室とそれぞれ定期的に意見交換を行うとともに、必要に応じて、独自に弁護士等の外部専門家の支援を受けることができる。

監査役が、その職務の執行について必要な費用の前払い等の請求をしたときは当該費用または債務を適切に処理する。

ル 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性を確保し、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度に適切かつ有効に対応するため、基本計画を定めた上、管理本部長をプロジェクトリーダーとする内部統制報告制度対応プロジェクトにより全社的な体制で整備を行う。

内部統制事務局は、内部統制報告制度対応プロジェクトに基づき、子会社を含め、シイエム・シイグループの財務報告に係る内部統制の状況について統括・管理する。

内部監査部門である内部監査室は、子会社を含め、シイエム・シイグループの財務報告に係る内部統制の仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、是正すべき事項があればこれを内部統制事務局に対し報告する。

ヲ 反社会的勢力排除に向けた体制

当社及び当社グループ会社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度で臨み、これらの活動を助長しないこととしている。また反社会的勢力及び団体から不当な要求があった場合には、必要に応じて外部機関(警察、弁護士等)と連携して組織的に取り組み、毅然とした対応をとる。

また、自治体(都道府県等)が制定する暴力団排除条例の遵守に努め、暴力団等反社会的勢力の活動を助長し、または暴力団等反社会的勢力の運営に資することとなる利益の供与は行わない。

(注) I S Pとは、「Information Security Management System(情報セキュリティマネジメントシステム)」と「Personal information protection Management System(個人情報保護マネジメントシステム)」から派生した当社の造語です。

③ 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査につきましては、社長直轄組織の内部監査室が4名体制にて法令・社内規程の遵守状況について監査を実施しており、リスク低減及び業務の改善に向け助言・是正指示を行っております。内部監査計画、監査実施状況につきましては、年2回定期的に取締役会に報告するとともに、被監査部門からは改善報告書の提出を求め適正な改善が行われているかどうかのフォローアップも実施しております。

監査役は取締役及び執行役員のコンプライアンス遵守状況、会社の意思決定と職務執行が適正であるかどうかについて監査しており、毎月の取締役会、経営企画会議にも出席し業務執行状況について監視できる体制となっております。また、監査役は会計監査人からの監査結果の報告や意見交換を行っており、内部監査室からの監査結果も随時報告を受ける等、連携強化を図るとともに有効かつ効率的な監査役監査を実施しております。

④ 社外取締役及び社外監査役

イ 社外取締役及び社外監査役の人数

当社の社外取締役は取締役6名中1名、社外監査役は監査役3名中2名であります。

ロ 社外取締役及び社外監査役の独立性に関する基準

当社では社外取締役または社外監査役を選任するための独立性について、基準または方針を明確に定めておりませんが、専門的な知見に基づく経営の監視や監督の役割を求めるとともに、一般株主と利益相反が生じる恐れがないことを基本的な考え方として選任しております。

ハ 社外取締役と当社との関係、選任理由、及びその独立性

大武健一郎氏は、財務省主税局長、国税庁長官などの要職を歴任し、国の財政運営に携わったことによる豊富な経験と高度な専門的知識を有していることから、それらを当社の経営に活かしたく、社外取締役に選任しております。また大武健一郎氏と当社との間には、人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はありません。

当該社外取締役1名は、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しております。

ニ 社外監査役と当社との関係、選任理由、及びその独立性

後藤武夫氏は、直接企業経営に関与された経験はありませんが、弁護士としての専門的な知識、経験等を当社の監査に反映していただくため、社外監査役に選任しております。また後藤武夫氏と当社との間には、人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はありません。

黒神聰氏は、直接企業経営に関与された経験はありませんが、大学教授としての長年の研究と法律の専門的な知識、経験等を当社の監査に反映していただくため、社外監査役に選任しております。また黒神聰氏と当社との間には、人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係はありません。

当該社外監査役2名は、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しております。

⑤ 役員の報酬等

a 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	141,795	63,400	—	40,200	38,195	5
監査役 (社外監査役を除く)	11,700	10,800	—	—	900	1
社外役員	16,250	15,000	—	—	1,250	3

(注) 1 執行役員兼務取締役の執行役員報酬相当額28,800千円は含まれておりません。

2 取締役兼務でない執行役員の執行役員報酬、賞与、退職慰労金は含まれておりません。

b 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

c 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

d 役員の報酬等の額の決定に関する方針

取締役に対する報酬限度額は、平成19年12月20日開催の第46期定時株主総会において、年額2億5千万円以内と決議しております。取締役個々の報酬につきましては、取締役会決議に基づく役員の内規に則り定めております。

監査役に対する報酬限度額は、平成19年12月20日開催の第46期定時株主総会において、年額4千万円以内と決議しております。監査役個々の報酬につきましては、監査役の協議によって定めております。

なお、平成29年12月22日開催の第56期定時株主総会において、取締役(社外取締役を除く)に、株価変動のメリットとリスクを株主の皆様と共有し、株価上昇及び企業価値向上への貢献意欲を従来以上に高めるため、新たに譲渡制限付株式報酬制度を導入することが決議されました。

⑥ 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツを会計監査人として選任しており、定期的な監査のほか、会計上の課題について随時相談、確認を行い、会計処理の透明性と正確性の向上に努めております。

有限責任監査法人トーマツの当社業務執行社員と当社グループとの間に特別の利害関係はありません。

当年度の会計監査業務を執行した公認会計士は、大中康宏、宇治川雄士の2名であります。なお、継続監査年数が7年以内のため、監査年数の記載は省略しております。

当年度の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士13名、その他14名であります。

⑦ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

a 自己株式取得決定機関

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

b 中間配当の決定機関

当社は、株主への利益還元の機動性を確保するため、取締役会の決議により、毎年3月31日を基準日として中間配当することができる旨を定款に定めております。

c 責任免除

当社は、取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)が、期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款で定めております。

⑧ 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、またその選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

⑨ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

⑩ 株式の保有状況

a 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 10銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 242,350千円

b 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	14,011	80,969	円滑な取引関係の維持と強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,000	5,051	円滑な取引関係の維持と強化
第一生命保険株式会社	2,600	3,565	円滑な取引関係の維持と強化
オークマ株式会社	2,000	1,534	円滑な取引関係の維持と強化

(注) 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、第一生命保険株式会社、オークマ株式会社は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、上位4銘柄(非上場株式を除く全保有銘柄)について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
トヨタ自動車株式会社	14,011	94,013	円滑な取引関係の維持と強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	10,000	7,307	円滑な取引関係の維持と強化
第一生命ホールディングス株式会社	2,600	5,249	円滑な取引関係の維持と強化
オークマ株式会社	2,000	2,464	円滑な取引関係の維持と強化

(注) 第一生命ホールディングス株式会社、オークマ株式会社は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ではありますが、上位4銘柄(非上場株式を除く全保有銘柄)について記載しております。

c 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	29,000	3,800	29,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	29,000	3,800	29,000	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、財務調査に係る業務であります。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査法人に対する監査報酬は、前事業年度までの監査内容及び監査法人から提示された当事業年度の監査計画の内容などを総合的に勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成28年10月1日から平成29年9月30日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入するとともに、監査法人等の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,788,559	7,262,345
受取手形及び売掛金	2,636,633	3,392,879
たな卸資産	※4 882,429	※4 820,078
繰延税金資産	195,541	218,540
その他	274,719	207,503
流動資産合計	9,777,883	11,901,347
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	789,618	729,806
機械装置及び運搬具（純額）	422,949	332,622
工具、器具及び備品（純額）	105,109	115,150
土地	1,680,618	1,680,618
建設仮勘定	3,600	36,900
その他（純額）	—	7,635
有形固定資産合計	※1 3,001,896	※1 2,902,732
無形固定資産		
のれん	229,039	45,807
ソフトウェア	133,236	103,950
その他	31,272	68,222
無形固定資産合計	393,548	217,981
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 658,537	※2 568,083
繰延税金資産	337,415	345,433
保険積立金	343,679	399,960
その他	※2 333,872	※2 342,621
貸倒引当金	△71	△71
投資その他の資産合計	1,673,433	1,656,027
固定資産合計	5,068,878	4,776,741
資産合計	14,846,761	16,678,088

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	786,790	※5 1,096,142
短期借入金	117,730	105,385
未払金	158,042	124,691
未払費用	192,129	249,301
未払法人税等	68,437	431,383
賞与引当金	496,279	512,254
役員賞与引当金	81,032	75,200
その他	203,304	364,258
流動負債合計	2,103,747	2,958,618
固定負債		
役員退職慰労引当金	214,292	227,561
退職給付に係る負債	1,121,242	1,187,843
その他	41,254	99,339
固定負債合計	1,376,789	1,514,743
負債合計	3,480,537	4,473,362
純資産の部		
株主資本		
資本金	657,610	657,610
資本剰余金	571,270	571,270
利益剰余金	10,077,003	10,811,606
自己株式	△770	△96,528
株主資本合計	11,305,114	11,943,957
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90,016	203,133
為替換算調整勘定	7,466	67,310
退職給付に係る調整累計額	△83,267	△63,753
その他の包括利益累計額合計	14,214	206,690
非支配株主持分	46,895	54,077
純資産合計	11,366,224	12,204,726
負債純資産合計	14,846,761	16,678,088

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)		当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	
売上高		16,499,196		16,889,054
売上原価	※1	11,202,293	※1	11,467,355
売上総利益		5,296,903		5,421,699
販売費及び一般管理費	※2	3,925,678	※2	4,049,026
営業利益		1,371,224		1,372,672
営業外収益				
受取利息		2,185		3,134
受取配当金		7,122		10,052
受取保険金		29,272		36,866
作業くず売却益		15,409		13,961
為替差益		—		82,153
その他		14,335		26,343
営業外収益合計		68,324		172,513
営業外費用				
支払利息		3,539		4,443
投資事業組合運用損		853		2,722
固定資産除却損		17,310		3,189
為替差損		87,951		—
その他		1,015		464
営業外費用合計		110,670		10,819
経常利益		1,328,878		1,534,365
特別利益				
固定資産売却益	※3	5,733	※3	558
特別利益合計		5,733		558
特別損失				
固定資産売却損	※4	797	※4	61
投資有価証券評価損		—		2,699
特別損失合計		797		2,761
税金等調整前当期純利益		1,333,815		1,532,162
法人税、住民税及び事業税		433,069		637,714
法人税等調整額		114,228		△45,349
法人税等合計		547,298		592,365
当期純利益		786,517		939,797
非支配株主に帰属する当期純利益		15,092		1,736
親会社株主に帰属する当期純利益		771,424		938,060

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
当期純利益	786,517	939,797
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,124	113,116
為替換算調整勘定	△127,683	66,079
退職給付に係る調整額	△48,609	19,514
その他の包括利益合計	※1 △184,417	※1 198,710
包括利益	602,099	1,138,508
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	596,936	1,130,536
非支配株主に係る包括利益	5,162	7,971

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	637,635	551,295	9,516,409	△770	10,704,570
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）	19,975	19,975			39,950
剰余金の配当			△201,460		△201,460
親会社株主に帰属する当期純利益			771,424		771,424
自己株式の取得					—
連結範囲の変動			△9,370		△9,370
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	19,975	19,975	560,593	—	600,543
当期末残高	657,610	571,270	10,077,003	△770	11,305,114

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	98,140	114,359	△34,658	177,841	9,745	10,892,157
当期変動額						
新株の発行（新株予約権の行使）						39,950
剰余金の配当						△201,460
親会社株主に帰属する当期純利益						771,424
自己株式の取得						—
連結範囲の変動						△9,370
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△8,124	△106,893	△48,609	△163,627	37,150	△126,477
当期変動額合計	△8,124	△106,893	△48,609	△163,627	37,150	474,066
当期末残高	90,016	7,466	△83,267	14,214	46,895	11,366,224

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	657,610	571,270	10,077,003	△770	11,305,114
当期変動額					
新株の発行(新株予約権の行使)					—
剰余金の配当			△203,458		△203,458
親会社株主に帰属する当期純利益			938,060		938,060
自己株式の取得				△95,758	△95,758
連結範囲の変動					—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	734,602	△95,758	638,843
当期末残高	657,610	571,270	10,811,606	△96,528	11,943,957

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	90,016	7,466	△83,267	14,214	46,895	11,366,224
当期変動額						
新株の発行(新株予約権の行使)						—
剰余金の配当						△203,458
親会社株主に帰属する当期純利益						938,060
自己株式の取得						△95,758
連結範囲の変動						—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	113,116	59,844	19,514	192,475	7,182	199,658
当期変動額合計	113,116	59,844	19,514	192,475	7,182	838,501
当期末残高	203,133	67,310	△63,753	206,690	54,077	12,204,726

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,333,815	1,532,162
減価償却費	325,998	311,742
のれん償却額	183,231	219,131
賞与引当金の増減額 (△は減少)	376	7,984
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△43,670	△5,832
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△77,874	13,268
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	98,916	86,115
受取利息及び受取配当金	△9,307	△13,187
支払利息	3,539	4,443
為替差損益 (△は益)	12,218	△7,404
固定資産売却損益 (△は益)	△4,936	△497
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	2,699
売上債権の増減額 (△は増加)	1,116,216	△662,557
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△186,437	72,541
仕入債務の増減額 (△は減少)	△378,483	259,094
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△217,080	162,845
その他	△59,155	84,142
小計	2,097,367	2,066,694
利息及び配当金の受取額	9,307	13,187
利息の支払額	△3,487	△4,446
法人税等の支払額	△925,665	△291,104
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,177,521	1,784,330
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△449,206	△115,052
有形固定資産の売却による収入	33,115	924
無形固定資産の取得による支出	△32,546	△87,661
投資有価証券の取得による支出	△103,129	△42,047
子会社株式の取得による支出	△300,000	—
長期貸付けによる支出	△114,837	—
その他	△7,124	1,514
投資活動によるキャッシュ・フロー	△973,728	△242,322
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	79,015	△22,758
長期借入金の返済による支出	—	△25,558
新株予約権の行使による株式の発行による収入	39,950	—
自己株式の取得による支出	—	△95,758
配当金の支払額	△201,005	△203,012
その他	△897	△2,924
財務活動によるキャッシュ・フロー	△82,938	△350,010
現金及び現金同等物に係る換算差額	△111,277	63,238
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9,577	1,255,235
現金及び現金同等物の期首残高	5,713,386	5,788,559
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	65,595	148,080
現金及び現金同等物の期末残高	※1 5,788,559	※1 7,191,875

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 7社

連結子会社の名称

株式会社CMC Solutions

丸星株式会社

Maruboshi Europe B.V.

広州国超森茂森信息科技有限公司

CMC ASIA PACIFIC CO., LTD.

Maruboshi (Thailand) Co., Ltd.

株式会社メイン

前連結会計年度において非連結子会社であった株式会社メインは、重要性が増したことにより当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社名

CMC PRODUCTIONS USA INC.

Maruboshi France S.A.R.L.

Maruboshi Central & Eastern Europe Sp. zo.o.

広州市丸星資訊科技有限公司

台湾丸星資訊科技股分有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用した関連会社数

該当事項はありません。

(3) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

CMC PRODUCTIONS USA INC.

Maruboshi France S.A.R.L.

Maruboshi Central & Eastern Europe Sp. zo.o.

広州市丸星資訊科技有限公司

台湾丸星資訊科技股分有限公司

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、いずれも当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等が連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、Maruboshi Europe B.V.、CMC ASIA PACIFIC CO., LTD. 及び株式会社メインの決算日は、6月30日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

連結子会社のうち、広州国超森茂森信息科技有限公司及びMaruboshi (Thailand) Co., Ltd. の決算日は、12月31日であります。

連結財務諸表の作成にあたっては、平成29年6月30日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1)重要な資産の評価基準及び評価方法

①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

②たな卸資産

a 商品・製品・原材料

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

b 仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

c 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法

①有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 4年～10年

工具、器具及び備品 2年～20年

②無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づいております。

③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3)重要な引当金の計上基準

①貸倒引当金

売掛金・貸付金等債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討して計上しております。

②賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度の負担額を計上しております。

③役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度の負担額を計上しております。

④役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づき、当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4)退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5)重要な収益及び費用の計上基準

完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準(ソフトウェア開発の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の契約については検収基準を適用しております。

(6)重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

(7)のれんの償却方法及び償却期間

7年間で均等償却しております。

(8)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヵ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(9)その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「投資事業組合運用損」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた1,869千円は、「投資事業組合運用損」853千円、「その他」1,015千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「前受金の増減額(△は減少)」及び「未払金の増減額(△は減少)」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「前受金の増減額(△は減少)」112,656千円、「未払金の増減額(△は減少)」△70,151千円、「その他」△101,661千円は、「その他」△59,155千円として組み替えております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	2,136,569千円	2,325,616千円

※2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
投資有価証券	392,835千円	92,835千円
投資その他の資産のその他	60,383 "	65,370 "

3 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	34,965千円	33,223千円

※4 たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
商品及び製品	133,477千円	131,838千円
仕掛品	737,961 "	675,168 "
原材料及び貯蔵品	10,990 "	13,071 "

※5 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
支払手形	一千円	31,845千円

(連結損益計算書関係)

※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
売上原価	7,137千円	11,051千円

※2 販売費及び一般管理費

主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
給与手当	1,218,668千円	1,290,310千円
役員報酬	298,237 "	309,398 "
賞与引当金繰入額	170,970 "	183,457 "
役員賞与引当金繰入額	81,032 "	75,200 "
役員退職慰労引当金繰入額	28,716 "	42,818 "
退職給付費用	68,136 "	78,733 "

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
機械装置及び運搬具	4,834千円	558千円
工具、器具及び備品	898 "	— "
計	5,733千円	558千円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
機械装置及び運搬具	797千円	—千円
工具、器具及び備品	— "	61 "
計	797千円	61千円

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△13,471千円	168,747千円
組替調整額	— "	— "
税効果調整前	△13,471千円	168,747千円
税効果額	5,346 "	△55,630 "
その他有価証券評価差額金	△8,124千円	113,116千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	△127,683千円	66,079千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△104,545千円	△25,968千円
組替調整額	35,703 "	54,047 "
税効果調整前	△68,842千円	28,079千円
税効果額	20,232 "	△8,564 "
退職給付に係る調整額	△48,609千円	19,514千円
その他の包括利益合計	△184,417千円	198,710千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,370,500	23,500	—	2,394,000

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。 新株予約権の行使による増加 23,500株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	374	—	—	374

3 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年12月22日 定時株主総会	普通株式	201,460	85	平成27年9月30日	平成27年12月24日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年12月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	203,458	85	平成28年9月30日	平成28年12月26日

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,394,000	—	—	2,394,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	374	35,169	—	35,543

(変動事由の概要)

平成28年11月9日の取締役会決議による自己株式の取得 35,100株
 単元未満株式の買取りによる増加 69株

3 新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年12月22日 定時株主総会	普通株式	203,458	85	平成28年9月30日	平成28年12月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年12月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	200,468	85	平成29年9月30日	平成29年12月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金	5,788,559千円	7,262,345千円
預入期間が3か月を超える定期預金	— 〃	△70,469千円
現金及び現金同等物	5,788,559千円	7,191,875千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、余剰資金を安全性の高い金融資産で運用しております。なお、余剰資金の運用を目的とする投機的な有価証券投資、リスク性金融商品投資は行わないことを基本方針としております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、主に関係会社株式及び取引先企業との業務または資本提携等に関連する株式であり、財務状況により価値が下落するリスク及び市場価格の変動リスクに晒されております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

当社は、与信管理規程に従い、営業債権について主要な取引先の与信調査を定期的に行い、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスクの管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状態等を把握しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5)信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち、41.8%が大口顧客に対するものであります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません((注)2を参照ください)。

前連結会計年度(平成28年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	5,788,559	5,788,559	—
(2)受取手形及び売掛金	2,636,633	2,636,633	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	164,672	164,672	—
資産計	8,589,865	8,589,865	—
(1)支払手形及び買掛金	786,790	786,790	—
(2)短期借入金	117,730	117,730	—
(3)未払金	158,042	158,042	—
(4)未払法人税等	68,437	68,437	—
負債計	1,131,001	1,131,001	—

当連結会計年度(平成29年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	7,262,345	7,262,345	—
(2)受取手形及び売掛金	3,392,879	3,392,879	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	340,952	340,952	—
資産計	10,996,176	10,996,176	—
(1)支払手形及び買掛金	1,096,142	1,096,142	—
(2)短期借入金	105,385	105,385	—
(3)未払金	124,691	124,691	—
(4)未払法人税等	431,383	431,383	—
負債計	1,757,603	1,757,603	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)未払金、(4)未払法人税等

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成28年9月30日	平成29年9月30日
非上場株式	493,864	227,131

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年9月30日)

	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)	10年超(千円)
預金	5,785,219	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,636,633	—	—	—
合計	8,421,853	—	—	—

当連結会計年度(平成29年9月30日)

	1年以内(千円)	1年超5年以内(千円)	5年超10年以内(千円)	10年超(千円)
預金	7,256,440	—	—	—
受取手形及び売掛金	3,392,879	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(債券)	—	8,338	—	—
合計	10,649,320	8,338	—	—

4 有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	117,730	—	—	—	—	—

当連結会計年度(平成29年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	105,385	—	—	—	—	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成28年9月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	159,186	31,451	127,734
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	159,186	31,451	127,734
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	5,486	5,600	△114
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	5,486	5,600	△114
合計	164,672	37,051	127,620

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額101,029千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成29年9月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	332,614	39,648	292,965
② 債券	8,338	4,174	4,164
③ その他	—	—	—
小計	340,952	43,822	297,129
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	340,952	43,822	297,129

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額134,296千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、投資有価証券について2,699千円減損処理を行っております。

減損処理にあたり、時価のある有価証券については、時価が取得価額に比べ50%超下落した場合には全て減損処理を行うこととしており、時価の下落率が30～50%の株式の減損に当たっては、個別銘柄毎に回収可能性を考慮して必要と認められた額について、減損処理を行うこととしております。

減損処理にあたり、時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券については、連結会計年度末において発行会社の財政状態の悪化等により実質価額が著しく低下した場合には、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除き、減損処理を行うこととしております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度と確定給付型の退職一時金制度を設けております。

連結子会社は、国内においては確定給付型の退職一時金制度または確定拠出年金制度を採用し、海外においては一部の会社にて確定拠出年金制度を採用しております。また、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度(簡便法を適用した制度を除く。)

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
退職給付債務の期首残高	607,091	753,377
勤務費用	38,610	48,097
利息費用	8,499	3,014
数理計算上の差異の発生額	104,545	25,968
退職給付の支払額	△5,368	△8,117
退職給付債務の期末残高	753,377	822,339

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	753,377	822,339
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	753,377	822,339
退職給付に係る負債	753,377	822,339
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	753,377	822,339

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
勤務費用	38,610	48,097
利息費用	8,499	3,014
数理計算上の差異の費用処理額	10,706	30,892
過去勤務費用の費用処理額	24,997	23,155
確定給付制度に係る退職給付費用	82,812	105,158

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
過去勤務費用	24,997	23,155
数理計算上の差異	△93,839	4,924
合計	△68,842	28,079

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
未認識過去勤務費用	30,162	7,007
未認識数理計算上の差異	89,648	84,724
合計	119,810	91,731

(6) 数値計算上の計算基礎に関する事項

主要な数値計算上の計算基礎(加重平均で表わしております。)

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
割引率	0.4%	0.4%

3 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
退職給付に係る負債の期首残高	366,625	367,865
退職給付費用	48,458	48,928
退職給付の支払額	△47,219	△51,290
退職給付に係る負債の期末残高	367,865	365,503

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	367,865	365,503
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	367,865	365,503
退職給付に係る負債	367,865	365,503
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	367,865	365,503

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度48,458千円 当連結会計年度48,928千円

4 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度46,046千円、当連結会計年度47,379千円です。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
(1)流動資産		
賞与引当金	150,523千円	152,990千円
未払事業税	5,979 "	26,539 "
未払費用	24,297 "	24,834 "
その他	14,741 "	14,176 "
計	195,541千円	218,540千円
(2)固定資産		
退職給付に係る負債	340,410千円	360,633千円
役員退職慰労引当金	67,459 "	71,586 "
減損損失	40,326 "	40,326 "
その他	28,186 "	33,447 "
評価性引当額	△96,475 "	△107,308 "
繰延税金負債(固定)との相殺	△42,491 "	△53,253 "
計	337,415千円	345,433千円
繰延税金資産合計	532,957千円	563,973千円

(繰延税金負債)

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
固定負債		
その他有価証券評価差額金	△37,406千円	△93,037千円
子会社の留保利益金	△14,460 "	△19,725 "
資産除去債務相当資産	△7,119 "	△6,791 "
その他	△20 "	△77 "
繰延税金資産(固定)との相殺	42,491 "	53,253 "
繰延税金負債合計	△16,516千円	△66,378千円
差引：繰延税金資産の純額	516,440千円	497,595千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年9月30日)	当連結会計年度 (平成29年9月30日)
法定実効税率	32.8%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入 されない項目	2.1 "	1.7 "
のれん償却額	4.5 "	4.4 "
評価性引当額の増減額	0.5 "	0.7 "
税率変更による期末繰延税金資産 の減額修正	1.8 "	— "
その他	△0.8 "	1.2 "
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	41.0%	38.7%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは主に製品・サービス別に「マーケティング事業」及び「システム開発事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「マーケティング事業」は、お客さま企業のマーケティング活動における戦略パートナーとして、お客さま企業の技術情報に関する知見を活かしたマニュアルなどの制作、業務標準化支援、及び、教育・研修といった一連のサービスにICTなどを活用して提供しております。

「システム開発事業」は、お客さま企業のICT戦略を支援するサービスとして、ICTソリューションの企画・提案、システムインテグレーション、ソフトウェア受託開発、ソフトウェア開発要員の派遣、ソフトウェアパッケージの販売、ハードウェア及び周辺機器販売、各種クラウドサービスなどを提供しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注1)	連結財務諸表計上額(注2)
	マーケティング事業	システム開発事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,720,054	1,779,141	16,499,196	—	16,499,196
セグメント間の内部売上高又は振替高	10,608	51,321	61,930	△61,930	—
計	14,730,663	1,830,463	16,561,126	△61,930	16,499,196
セグメント利益	1,479,590	70,065	1,549,655	△178,431	1,371,224
セグメント資産	13,507,623	1,119,639	14,627,263	219,498	14,846,761
その他の項目					
減価償却費	316,169	9,828	325,998	—	325,998
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	281,796	21,401	303,198	—	303,198

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△178,431千円には、セグメント間取引消去4,800千円、のれんの償却額△183,231千円が含まれております。

(2) セグメント資産の調整額219,498千円には、のれん229,039千円、セグメント間取引消去△9,540千円が含まれております。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注1)	連結財務諸表計上額(注2)
	マーケティング事業	システム開発事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,965,116	1,923,938	16,889,054	—	16,889,054
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,420	85,086	97,507	△97,507	—
計	14,977,536	2,009,024	16,986,561	△97,507	16,889,054
セグメント利益	1,466,431	84,671	1,551,103	△178,431	1,372,672
セグメント資産	15,196,154	1,462,455	16,658,610	19,478	16,678,088
その他の項目					
減価償却費	301,643	10,098	311,742	—	311,742
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	166,217	33,692	199,909	—	199,909

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント利益の調整額△178,431千円には、セグメント間取引消去4,800千円、のれんの償却額△183,231千円が含まれております。

(2)セグメント資産の調整額19,478千円には、のれん45,807千円、セグメント間取引消去△26,329千円が含まれております。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
14,067,796	2,431,399	16,499,196

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車株式会社	6,272,373	マーケティング事業

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
14,662,436	2,226,618	16,889,054

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
トヨタ自動車株式会社	6,172,283	マーケティング事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	マーケティング事業	システム開発事業	計		
当期償却額	—	—	—	183,231	183,231
当期末残高	—	—	—	229,039	229,039

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	マーケティング事業	システム開発事業	計		
当期償却額	35,900	—	—	183,231	219,131
当期末残高	—	—	—	45,807	45,807

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
重要な 子会社 の役員	岩本 信生	—	—	(株)CMC Solutions代 表取締役社長	(被所有) 直接 1.1	—	ストックオ プションの 権利行使(注 1)	11,900 (7,000株)	—	—
役員及 びその 近親者	林 史子	—	—	—	(被所有) 直接 4.59	—	弔慰金の支 払(注2)	32,600	—	—

(注) 1 平成18年8月31日開催の当社取締役会の決議に基づき付与されたストックオプションの当連結会計年度における権利行使を記載しております。

2 平成27年12月に逝去した前取締役会長林幹治の遺族として弔慰金の支払を受けたものであります。なお、支給金額の決定にあたっては、当社規程に基づいております。

当連結会計年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
重要な 子会社 の役員	岩本 信生	—	—	(株)CMC Solutions代 表取締役社長	(被所有) 直接 0.6	—	自己株式の 取得(注)	38,080	—	—
役員及 びその 近親者	林 史子	—	—	—	(被所有) 直接 2.9	—	自己株式の 取得(注)	38,080	—	—
役員及 びその 近親者	近藤 幸康	—	—	当社取締役	(被所有) 直接 0.2	—	自己株式の 取得(注)	16,320	—	—

(注) 自己株式の取得は、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)により取得しており、取引価格は平成28年11月9日の終値によるものであります。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり純資産額	4,728円95銭	5,151円95銭
1株当たり当期純利益金額	325円08銭	397円09銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	313円02銭	—

(注) 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	771,424	938,060
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に 帰属する当期純利益(千円)	771,424	938,060
普通株式の期中平均株式数(株)	2,373,022	2,362,348
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 金額		
親会社株主に帰属する 当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	91,466	—
(うち新株予約権)(株)	91,466	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式 調整後1株当たり当期純利益金額の算 定に含まれなかった潜在株式の概要		—

(注) 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	117,730	105,385	3.9	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	1,976	1,976	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	7,635	5,659	—	平成33年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	127,342	113,021	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	1,976	1,976	1,706	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	3,687,170	8,178,832	11,827,443	16,889,054
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	355,603	699,422	771,805	1,532,162
親会社株主に帰属 する四半期(当期) 純利益金額 (千円)	223,053	431,387	436,252	938,060
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	93.97	182.31	184.57	397.09

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	93.97	88.33	2.06	212.77

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,401,646	5,469,582
受取手形	207,445	142,412
売掛金	※3 1,465,468	※3 2,017,638
製品	124,428	106,977
仕掛品	468,491	431,342
原材料及び貯蔵品	9,682	11,046
繰延税金資産	127,788	148,344
その他	※3 173,917	※3 89,181
流動資産合計	6,978,868	8,416,524
固定資産		
有形固定資産		
建物	702,396	650,426
構築物	22,319	19,409
機械及び装置	390,839	308,714
車両運搬具	9,998	6,666
工具、器具及び備品	60,744	66,585
土地	1,680,618	1,680,618
建設仮勘定	3,600	36,900
有形固定資産合計	2,870,516	2,769,319
無形固定資産		
ソフトウェア	110,445	70,769
その他	26,131	29,656
無形固定資産合計	136,577	100,426
投資その他の資産		
投資有価証券	191,170	242,350
関係会社株式	2,599,717	2,599,717
関係会社出資金	52,359	52,359
繰延税金資産	249,345	272,369
保険積立金	276,370	300,400
その他	58,920	62,040
投資その他の資産合計	3,427,883	3,529,239
固定資産合計	6,434,977	6,398,985
資産合計	13,413,845	14,815,509

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	202,356	※4 197,889
買掛金	※3 412,403	※3 510,686
未払金	※3 107,591	※3 79,041
未払費用	102,798	130,695
未払法人税等	—	338,400
賞与引当金	326,497	333,897
役員賞与引当金	62,000	53,200
その他	※3 36,555	※3 197,594
流動負債合計	1,250,202	1,841,403
固定負債		
退職給付引当金	633,567	730,608
役員退職慰労引当金	160,496	170,171
その他	17,310	17,519
固定負債合計	811,375	918,300
負債合計	2,061,577	2,759,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	657,610	657,610
資本剰余金		
資本準備金	571,270	571,270
資本剰余金合計	571,270	571,270
利益剰余金		
利益準備金	68,723	68,723
その他利益剰余金		
別途積立金	8,540,000	8,840,000
繰越利益剰余金	1,462,047	1,949,254
利益剰余金合計	10,070,770	10,857,977
自己株式	△770	△96,528
株主資本合計	11,298,881	11,990,329
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	53,386	65,476
評価・換算差額等合計	53,386	65,476
純資産合計	11,352,267	12,055,806
負債純資産合計	13,413,845	14,815,509

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
売上高	※2 10,573,810	※2 10,245,400
売上原価	※2 7,278,811	※2 7,024,301
売上総利益	3,294,998	3,221,098
販売費及び一般管理費	※1,2 2,165,035	※1,2 2,085,091
営業利益	1,129,963	1,136,007
営業外収益		
受取利息及び配当金	※2 88,047	※2 160,520
為替差益	—	75,509
その他	※2 52,790	※2 49,235
営業外収益合計	140,837	285,264
営業外費用		
為替差損	86,363	—
その他	18,304	4,900
営業外費用合計	104,668	4,900
経常利益	1,166,133	1,416,372
特別利益		
固定資産売却益	2,820	—
その他	2,508	—
特別利益合計	5,329	—
特別損失		
固定資産売却損	207	—
投資有価証券評価損	—	2,699
特別損失合計	207	2,699
税引前当期純利益	1,171,255	1,413,672
法人税、住民税及び事業税	296,756	471,648
法人税等調整額	90,808	△48,641
法人税等合計	387,564	423,007
当期純利益	783,690	990,665

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金		
				別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	637,635	551,295	551,295	68,723	7,940,000	1,479,816	9,488,540
当期変動額							
新株の発行（新株予約権の行使）	19,975	19,975	19,975				
別途積立金の積立					600,000	△600,000	—
剰余金の配当						△201,460	△201,460
当期純利益						783,690	783,690
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	19,975	19,975	19,975	—	600,000	△17,769	582,230
当期末残高	657,610	571,270	571,270	68,723	8,540,000	1,462,047	10,070,770

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△770	10,676,701	66,261	66,261	10,742,962
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）		39,950			39,950
別途積立金の積立		—			—
剰余金の配当		△201,460			△201,460
当期純利益		783,690			783,690
自己株式の取得		—			—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△12,875	△12,875	△12,875
当期変動額合計	—	622,180	△12,875	△12,875	609,304
当期末残高	△770	11,298,881	53,386	53,386	11,352,267

当事業年度(自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計
		資本準備金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	繰越利益剰余金	
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	657,610	571,270	571,270	68,723	8,540,000	1,462,047	10,070,770
当期変動額							
新株の発行（新株予約権の行使）			—				—
別途積立金の積立					300,000	△300,000	—
剰余金の配当						△203,458	△203,458
当期純利益						990,665	990,665
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	—	—	—	—	300,000	487,206	787,206
当期末残高	657,610	571,270	571,270	68,723	8,840,000	1,949,254	10,857,977

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△770	11,298,881	53,386	53,386	11,352,267
当期変動額					
新株の発行（新株予約権の行使）		—			—
別途積立金の積立		—			—
剰余金の配当		△203,458			△203,458
当期純利益		990,665			990,665
自己株式の取得	△95,758	△95,758			△95,758
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			12,090	12,090	12,090
当期変動額合計	△95,758	691,448	12,090	12,090	703,538
当期末残高	△96,528	11,990,329	65,476	65,476	12,055,806

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 製品・原材料

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(2) 仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

(3) 貯蔵品

最終仕入原価法による原価法(収益性の低下による簿価切り下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～50年

機械及び装置 4年～10年

工具、器具及び備品 2年～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。なお、ソフトウェア(自社利用)については、社内における見込利用可能期間(5年)に基づいております。

4 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

売掛金・貸付金等債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収の可能性を検討して計上しております。

(2)賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度の負担額を計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度の負担額を計上しております。

(4)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付費用の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(5)役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づき、当事業年度末要支給額を計上しております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(2)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
受取手形裏書譲渡高	34,965千円	33,223千円

2 保証債務

以下の会社の金融機関からの借入債務に対し、保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
広州国超森茂森信息科技有限公司	52,122千円	40,714千円
CMC ASIA PACIFIC CO., LTD.	58,200 "	67,600 "
計	110,322千円	108,314千円

※3 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権または金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
短期金銭債権	4,482千円	3,799千円
短期金銭債務	63,558 "	63,152 "

※4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
支払手形	一千円	31,845千円

(損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費

主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
給与手当	655,022千円	670,342千円
役員報酬	168,350 "	169,600 "
賞与引当金繰入額	110,738 "	114,786 "
役員賞与引当金繰入額	62,000 "	53,200 "
役員退職慰労引当金繰入額	23,866 "	37,575 "
退職給付費用	37,075 "	46,476 "
減価償却費	94,245 "	81,599 "
おおよその割合		
販売費	5%	4%
一般管理費	95 "	96 "

※2 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
営業取引		
売上高	39,576千円	44,573千円
外注費	366,228 "	334,273 "
その他の営業費用	28,686 "	35,263 "
営業外取引		
資産の購入	9,858千円	28,376千円
資産の売却	3,600 "	— "
営業外収益	89,766 "	162,909 "

(有価証券関係)

前事業年度(平成28年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,599,717千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成29年9月30日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式2,599,717千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
(1)流動資産		
賞与引当金	100,234千円	102,506千円
未払事業税	637 "	19,769 "
未払費用	15,885 "	16,252 "
その他	11,030 "	9,815 "
計	127,788千円	148,344千円
(2)固定資産		
退職給付引当金	193,319千円	222,863千円
役員退職慰労引当金	49,007 "	51,902 "
会社分割による子会社株式調 整額	45,127 "	45,127 "
減損損失	40,326 "	40,326 "
その他	9,260 "	12,142 "
評価性引当額	△60,120 "	△67,564 "
繰延税金負債(固定)との相殺	△27,575 "	△32,429 "
計	249,345千円	272,369千円
繰延税金資産合計	377,133千円	420,713千円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
固定負債		
その他有価証券評価差額金	△22,818千円	△27,879千円
資産除去債務相当資産	△4,757 "	△4,549 "
繰延税金資産(固定)との相殺	27,575 "	32,429 "
繰延税金負債合計	— 千円	— 千円
差引：繰延税金資産の純額	377,133千円	420,713千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	702,396	3,270	1,233	54,006	650,426	902,829
	構築物	22,319	—	—	2,910	19,409	23,066
	機械及び装置	390,839	16,410	—	98,535	308,714	963,280
	車両運搬具	9,998	—	—	3,331	6,666	32,917
	工具、器具及び備品	60,744	32,222	646	25,734	66,585	214,103
	土地	1,680,618	—	—	—	1,680,618	—
	建設仮勘定	3,600	34,670	1,370	—	36,900	—
	計	2,870,516	86,573	3,250	184,519	2,769,319	2,136,197
無形固定資産	ソフトウェア	110,445	31,246	250	70,670	70,769	378,309
	その他	26,131	31,374	27,604	245	29,656	624
	計	136,577	62,620	27,855	70,916	100,426	378,933

(注) 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建設仮勘定

社屋用土地購入手付金

33,300千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	326,497	333,897	326,497	333,897
役員賞与引当金	62,000	53,200	62,000	53,200
役員退職慰労引当金	160,496	37,575	27,900	170,171

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	無料
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告といたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.cmc.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- 1 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- 2 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- 3 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第55期(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)平成28年12月22日東海財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第55期(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)平成28年12月22日東海財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第56期第1四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日)平成29年2月10日東海財務局長に提出

第56期第2四半期(自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日)平成29年5月12日東海財務局長に提出

第56期第3四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)平成29年8月9日東海財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成28年12月26日東海財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年12月22日

株式会社シイエム・シイ

取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	大 中 康 宏 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	宇 治 川 雄 士 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社シイエム・シイの平成28年10月1日から平成29年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社シイエム・シイ及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社シイエム・シイの平成29年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社シイエム・シイが平成29年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年12月22日

株式会社 シイエム・シイ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 中 康 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宇 治 川 雄 士 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社シイエム・シイの平成28年10月1日から平成29年9月30日までの第56期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社シイエム・シイの平成29年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。